

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800909		
法人名	中央ケアサービス株式会社		
事業所名	なでしこ大紀		
所在地	三重県度会郡大紀町崎181-4		
自己評価作成日	平成24年2月2日	評価結果市町提出日	平成 24年 4月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472800909&SCD=320&PCD=24
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24 年 2 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なでしこ大紀の理念
 ・笑顔とやさしい声の響きこそ最大の良薬
 ・利用者の苦しみを除き楽しさを与える事こそがケアの原点
 ・心と目は常に利用者に
 ・利用者のために職員の団結
 ・常に現状を乗り越える知恵の発揮を
 を誇りとして地域でなくてはならない、灯台のような存在になる事を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢化の進展に伴い、地域高齢者の暮らしを心配し、長年行政にかかわり、ボランティアとしても地域に貢献してきた代表者夫婦が、家族ぐるみで、自分達が理想としている、『地域ではなくてはならない灯台のような存在になること』を目指し、運営に取り組んでいる事業所である。特に管理者の笑顔と運営手法は職員を信頼し、利用者の為に良い事は何でもやっていこうと願う姿勢があふれ、それに職員も日々応えていく様子が感じ取れる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を室内に掲げ、毎朝引継ぎ時唱和している。又、毎月の全体会議で確認し合い、常に念頭において実践している。	「自分の家で過ごすように」と、5つの項目を理念に掲げ支援している。理念は見やすい場所に掲示し、毎日唱和し確認し合っている。特に声掛けや日々の対応が、利用者の立場なら如何かと考えて支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	各所で行われるイベント情報を把握し、出来る限りの交流を支援している。地域主催の文化展にも出品し参加している。又、近所のスーパーへの買い物も極力同行している。家族・親戚の方が気軽に訪問されている。	ボランティアによるお茶会や、老人会の草取りも定期的に受けている。夏祭りは例年8月1日に行い、利用者家族も含め百人程の参加があり、地域の行事の一つになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年恒例になっている当施設での夏祭りやイベントに、近所や地域のみなさんに参加を呼びかけ、その際、認知症についてのパンフレットを配布し自然な形で交流し、ご理解いただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行う、推進会議では入居者の現状や取り組みを報告し、ご意見を伺い、よく職員で話し合い実践に活かしている。	町福祉課、地域包括支援センター、地域代表、民生委員、家族代表等のメンバーで2ヶ月毎に開催されている。メンバーがボランティアとして、紙芝居を演じてくれたり、地域防災の取り組みに発展することもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に健康福祉課・ケアプランセンター・地域包括支援センター・民生委員・議員・ボランティア・家族代表に参加いただき報告し意見を交わしている。町で研修会を開いて欲しいと要望して開催してもらった。	中学校の体験学習の受け入れや、町主催の認知症研修会に参加したりして、職員の資質向上を目指すと共に、交流や意見交換の機会になっている。近くの支所には介護保険の更新手続き等で書類を届ける等、情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを、代表者初め職員は充分理解しているし取り組んでいる。	職員は身体拘束の弊害についてよく理解しており、ずり落ちない為のベルト着用は、研修や話し合いを行い、以前に比べ短い時間の着用を実践している。しかし、玄関は施錠されている。	玄関の施錠が利用者に与える心理的な弊害はとても大きいことから、利用者の安全を確保しつつ、抑圧感のない暮らしが出来るように、施錠しない時間帯の実践に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にしていません。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し学んでいるが、今までに必要な人はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は前もってお渡しし、ゆっくり時間をかけて目を通してもらってから詳しく説明するよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族代表にも参加してもらい意見をいただいているし、苦情相談窓口にもなってもらっている。玄関にもポストを設置。パンフレットも置き、又、意見用紙を家族に送付し直接伺えるよう努力している。	面会時は必ず家族と話し合いの時間を作り、要望や意見を聞き、運営やケアに反映している。3ヶ月に一回は担当者が家族に手紙を書き、状況を報告すると共に、家族の意見用紙を同封する等意見が出やすい様努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を、全体会議だけでなく常時しっかり聞いているし、言える雰囲気が出てきている。年1回、一年を振り返っての感想を文書で提出してもらっている。	施設長は常に現場の声を聞き、月一度の全体会議の意見・提案も検討されて、運営やケアに活かされている。年一回は感想文を全職員に求め、それらを基に面談が行われている。外部評価時の自己評価も職員全員が提出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境、状況を極力考慮し、配慮しているし話し合いの機会をよく持っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の人材育成が重要と考え、研修を推進したり、新人職員には独自に研修会を持っている。又、隔月、職員一斉研修会をもっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会の研修会に毎月参加して同業者の交流を大事にしている。地域のネットワークの研修会に沢山参加できた。実地研修にも当施設を使ってもらった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が不安、不穏にならないようにやさしい声掛けと笑顔を心がけ、常にスキンシップをとりながら傾聴しよき信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談時間を多く持ち話をしっかり聞き、要望を受け止め、職員間の協議を重ねている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人の意見を一番に尊重し、その上で、まず必要としている支援を見極める事に重点をおき、時間をかけて話し合い、サービスに活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや買い物、茶碗洗い、縫い物、お盆拭き、テーブル拭き、掃除などできる事はなんでもやってもらうことで、必要とされている事を解かっていたくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお知らせと、一人一人に担当がついており、3ヶ月ごとに手紙で状況を知らせている。来設の折は家族の記念写真をとったり、ゆっくり過ごしていただくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いきつけの美容院や墓参り、見舞い、餅まきに参加など、出来る限りの支援をしている。	教え子の面会だったり、家族との墓参り、神社での餅まき行事に参加、桜の時期の花見やお茶会等、馴染みの人や場所との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う人、合わない人のつながりなどを把握し、いい距離が保てるよう配慮しているし、皆で楽しめるよう考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為、退去されるケースがほとんどで、励ましの寄せ書きや千羽鶴などをお持ちしている。また自宅に帰られたケース時には、本人・家族の相談に応じ支援した。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と向かい合い、何でも話してもらえる関係を意識し、家族にも伺い検討している。	職員は午後のゆったりした時間に個別に話しを聞き、把握に努めている。またケア計画担当者は独自でセンター方式シートを作成し、思いや意向の把握に努めているが、家族・職員とはセンター方式シートでの思いや、意向の共有までは繋がっていない。	利用者の思いや意向を、全ての職員が共有のうえ、ケアの場で活かされるように、センター方式の活用等、工夫される事を期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認定調査資料なども参考にし、日常の会話の中で状況を把握しながらよりよき方向にと努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は本人のペースに合わせる事が基本にあり無理をさせない声掛けをし、職員が入居者に目を向ける事で見えてくる現状を把握し支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	更新の面会時にはサービス担当者会議を開き、現状報告をしながら、本人、家族の意向を考慮し希望に添えるよう職員と共によく協議して作成している。	モニタリングは担当職員が3ヶ月毎に行い、それを担当職員・看護師・ケア計画担当者でその都度確認し、必要なら計画の見直しに繋げている。家族には面会時等に意見を聞くと共に、更新時には面会に合わせた担当者会議を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	正確かつ詳細に記入する個別記録や気づきは職員間の大切な共有材料になっている。職員がサインする事で共有の確認をしている。職員としての気づきや見直しの提案は即話し合って考慮している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行きたいところ、したい事全て叶えられなくても努力はしている。こんな事までと思えることも職員でよく話し合って決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の特色、産物、地域柄など職員も地域の出身なのでよく把握、理解しておりGHの共同生活を安心して楽しんでもらえるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間毎のかかりつけ医の往診があり、充分な時間をかけて診てもらっている。緊急時でもすぐ対応してもらえる関係にある。直接医師と家族が話が出来るよう支援している。	以前からのかかりつけ医を受診の利用者は2名で、他の利用者は家族の希望で協力医に変更され、2週間毎の往診を受けている。緊急時も迅速な対応があり、家族にも経過を聞く機会が作られる等、信頼されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや情報は詳細に伝えられ、きちんと連携が取れている。休日だけでなくいつでも対応できる関係ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には家族、医師、看護主任交えサービス担当者会議を開催している。入院時には介護サマリーを提出、退院時には看護サマリーをもらい、関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でできるサービスを家族に説明し納得を得たうえで家族の意向もしっかり伺っている。かかりつけ医にも伝え了解を得て介護上の注意点を守り総力で対応している。	重度化や終末期については、入居時に、食べ物が摂取出来なくなれば事業所で支援していくことは難しいと伝え、了承されている。本人・家族の希望があり、その都度、家族・主治医・職員と共に話し合いつつ、終末期の援助は経験している。現在も会議時には必要性や対応について話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応方法は全職員はマニュアル通りに対応できるように身に付けているし、連携プレーで対応している。教訓も生かせるようその都度緊急会議を持ち話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練には全員参加を義務付けている。又地元職員が数名駆けつけられる状態にある。運営推進会議の席上でも協力体制をお願いしている。地域の防災委員会に所属している。実際に2度避難した。	地域の有志による防災委員会に所属し、地域を守る為の活動に意欲的で、事業所を一時避難場所にと申し出ている。水害から実際に避難した経験・反省点を挙げ、安全な避難場所、避難経路、職員の役割について検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に笑顔とやさしい声の響きこそ最大の良薬とあるように全体会議で一番注意し合い、話し合われるのは入居者への人格の尊重と言葉遣いである。常に気をつけて対応している。	家族とも相談して、利用者に合った呼び方で呼んでいる。理念の「笑顔とやさしい声の響き」を念頭に、常にその場で注意しあったり、確認しあっている。又、失禁時の交換は特に尊厳とプライバシーに配慮し、支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを聞き出せたり気づいたり出来るよう努力しているし、そういう雰囲気を作れるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調やペースを乱すことなく、まず傾聴し本人の希望を優先し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容、美容の免許のある職員がいるので整髪もきちんと出来ているし髭剃り、爪きりも出来ている。選べる人には自分で好みの服を選んで着用してもらっている。お正月にはお化粧も勧めた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	気の合う人と同じテーブルで会話を楽しみ、嗜好品を分け合いながら食事が出来るよう考えて席を決めている。お膳運びや食器洗い、お盆拭きも出来る範囲は一緒にやっている。	利用者同士が食事を楽しめる様、席は工夫され、笑顔や会話が見られる。一部の利用者は、食器すすぎ・下膳等、持てる力が活かされており、楽しそうである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節感や彩りを考えてメニューを決め、その日の体調や歯の様子を見て、本人に伺いながら調理方法を変更し、出来ない所を支援している。又、摂取量と水分量を記録して医師に相談し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ガーゼ対応、ローリング歯ブラシ、入れ歯洗浄剤など本人に応じた声かけ、見守りの口腔ケアをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を見ながら自尊心を損ねないように言い、トイレ誘導やおむつの交換を行っている。おむつの使用には職員がいろいろ検討し工夫して、ぎりぎりの選択をしている。	半数の利用者は自立できている。入居前からのおむつ使用者は、おむつを外せるよう排泄表で把握しながら支援し、トイレでの自立の排泄を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化のいいものや食物繊維を多く含むと思われる食品など、職員が知恵を出し合って提供することが多い。定期的な体操や歩く事で改善している。医師にも相談し、内服薬を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調をみて曜日変更したり、午前午後の入浴希望を聞いて無理をしない入浴支援ができています。	夏場は週3回、冬場は週2回の入浴となっている。夜に入りたいとの要望はないが、あれば対応できる。また、拒否の方も無理強いせず、その日の体調やその時の気分を捉え、入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明かりを一晩中つけていたい人、豆球だけの人、廊下の明かりなどその人に合った状況を支援している。なかなか眠れない人にはホットミルクなどで対応し、見守りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書や副作用のチェックを行い、薬による症状の変化を見逃さない為職員とよく話し合っている。出来る限り薬を少なくする方向で医師に相談し体調をみながら検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の得意分野や生活歴から考えられる事をよく理解検討し、無理のない状況で提供している。買い物、ドライブ、喫茶店などにもよく出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と外泊したり、外食、買い物、墓参りなどで出かける事で気分転換になっている。地域への催しにも参加したり孫の学校行事に出かけたり、近所のカラオケ喫茶にも出かける事も多い。港市などにも出かけ買ってきた魚を料理して食べる事もある。	自宅へ出かけたり、竹の子掘り、椎茸採り、港市やスーパーでの買い物、散歩、カラオケが楽しみな3～5人でのカラオケ喫茶への外出、家族の協力の外泊、外食、墓参り等出来る限り、希望に沿った外出を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	嗜好品が購入できる程度の小遣いを持ち自己管理している人が6名いる。買い物にも出かけられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話はすぐに取り次いでいるし、いつでも自由にかけることができる。手紙を代筆した事もあるし一緒に投函しに行くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節の花や観葉植物を絶やさず安心と安全を心得ながら配慮している。表示もわかりやすいものを工夫したり、壁には季節に合う入居者の作品(ちぎり絵や塗り絵、刺し子、習字)を飾り、楽しめるよう配慮している。	共用空間は居間、食堂、作業スペースと、それぞれがコーナーとして存在し、大きな窓で囲われ、明るくゆったりとしている。文化展に出品されたちぎり絵や習字等が季節の花と共にバランスよく飾られ、面会者との話題づくりや創作した利用者の誇りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各テーブルとイス、ソファ、こたつ、按摩器、運動機具など設置し、自由に休憩や作業が出来、我が家での生活空間をイメージして工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテレビやたんす、仏壇、家族の写真などを置かれたり、職員も椅子や机を配置して工夫し、少しでも寂しくないように、カーテンを替えたり、家族とのスナップ写真を壁に張って喜んでもらっている。	テレビ・筆筒・仏壇や小物等、家族と共に利用者の好む場所に設置したり、カーテンを換え全体を模様替えしたりと、少しでも心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂は対面式になっており食事のできる様子も解かり、気軽に一緒にやれる状況になっている。広間は皆集まって一緒に作業したり趣味を楽しんだりして生活し、寂しくないように配慮している。		